

SSKU

2010

お元気ですか?  
イリアンソス  
です。



のぞみの家 たんぼぼ班  
7月の「じゃが芋掘り」の様子



## 理事長の散歩道

### 特集

「自分の息子でも暮らせる

生活寮が欲しい！」

## 新連載 がんばれイリアンソス!

「～ボーリング大好き!～目指すはプロボーラー!？」

～わが街でやらなければならないこと～

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家

東久留米市下里2-7-18

042-473-9027

042-473-9036 (F)

iriansos@qq8.so-net.ne.jp

●活動センターかなえ

東久留米市南沢2-20-51

042-451-0252

042-451-0262 (F)

kanae@yg8.so-net.ne.jp

●なかまの家

東久留米市中央町2-1-47

042-472-7130

042-444-3722 (F)

na0317@zc4.so-net.ne.jp

●生活寮「うみ」「そら」

東久留米市下里4-2-7

042-476-3400 (F兼)

umi-sora@dj9.so-net.ne.jp

理事長の散歩道



社会福祉法人イリアンソス  
理事長 山田耕一郎

五度目の眼科診療に来日された台湾の福祉施設のオーナーのSさんに乗せて、仙台空港から蔵王山系を横切って、山形に向かった。途中、山々の尾根は濃い碧に彩られ、照りつく太陽の光にむせんでいるようであった。まさに夏のど真ん中を突き進んでいった。

「此処にかける、信じて従う」

Sさんから国際電話で「目の見え方が悪くなった。3月に花見に東京へ行こうと思っていたが、花見どころではない。目の手術を受けたい。」と、切羽詰まった様子である。

「今かかっている台北の病院はではだめなの？」と問い返すと、「山形大学病院の山下教授が、糖尿病からくる眼科の新しい治療があると、日本の雑誌が紹介しているの、是非連絡をとってもらいたい。」さすがの私も途方にくれた。果たして、一面識もない私が病院長でもある山下先生にお願いしても聞き入れられるものか、躊躇したが、だめで元々と覚悟を固めて電話をいれたところ、「ど

うぞ」という返事が秘書の方から入ってきた。

そこで、Sさんは台湾から、紹介者となった私は東京から山形大学病院への月参りが3月から始まったのである。Sさんは模範的な患者であった。例えば、目薬を1日に6回さすといったことも、時間をきめて忠実に実行した。まさに「この人にたくそうとかける、信じて従う」の域である。それはまた、山下教授の思いやりがあったからこそ、実現したのである。

小鳥の病院

ところで、日本で初めて小鳥のための病院を開設されたのは、高橋達志郎さんであった。高橋さんは元々獣医で、若いとき保健所の医師を努め、狂犬病の対策に奔走していて解剖中に誤って、自分の手を傷つけてしまった。死ぬかもしれない恐怖の中、狂犬病のワクチンの投与を受けた。ところが、副作用が出て足が動かなくなった。一転奈落の底である。わが身の不運を嘆き、心中は「死にたい、．．．死にたい。」の連続の日々であった。

しかし、家族の献身的な介護を受けて、肉親を裏切ることもできず、死への執着から離れるのである。でも、肉体の痛み

は中々去らない。約4年の入院生活から退院して、まず暇つぶしに小鳥を飼い始めた。それが縁で「そうだ、小鳥の病院を造ろう」と決意して、高橋さんが病院長、奥さんが看護婦さんと二人きりの病院が誕生したのは、昭和37年のことであつた。屋根から落ちて動けなくなった。すずめ、羽の折れたカラス、お腹を痛めたインコたちが患者である。お金にはならない。それでも、助かつてほしいと必死の思いでつれてきた人々の胸中に答えて、心を込めて治療した。まさに、思いやりの連携である。

私たちの福祉サービスは、採算を通り越した思いやりである。わがまを云つて発散して、苦しみもだえる心の悲鳴を表している利用者の姿に直面した時、一緒に腹を立てて叩いて、叱っているのは、何の救いにもならない。

我々も、心の叫びが見える思いやりに満ちた支援者・パートナーでありたい。





「生活寮そら」で生活している渡辺行教君

## 特集

# 自分の息子でも暮らせる生活寮が欲しい!

当法人では、2011年4月に新たな生活寮の事業をめざしています。「生活寮そら・うみ」の第2弾です。どんなに障害が重くても、二十歳を過ぎたら、社会が暮らしを支えていく。これはわたしたちの大きな目標です。この目標をめざしていくためにも、今回は、あらたな生活寮に対して、4人のお母さんたちに感想や期待すること、そして、わが子の暮らしについて考えていることを聞かせて頂きました。

### 自分の居場所になって欲しい

**磯部** 今日は、地域で暮らす4人のお母さんに来ていただき、生活寮の話を中心にお話していただきます。

まず、まだ生活寮を利用していない廣澤さん、生活寮のイメージってどうですか？

**廣澤** 十二年前、調布に見学に行ったのですが、古い家をリホームして、空間的にも狭いなあとというイメージでした。だから自分の子どもは難しいと思っていました。

**磯部** あのころの生活寮は、まだ障害の重い人たちの生活を支えていく仕組みはありませんでしたよね。

**廣澤** 運営も大変で、志がある人が頑張る、それに協力出来る人が寮に子どもを入れるという感じだったわね。

**磯部** 協力ってどんな協力するのですか？

**廣澤** 食事、洗濯、掃除の協力が出来る人が入るところ、というイメージでした。でも、イリアンソスの生活寮

ができて、障害の重い人でも5、6年経って徐々にリラックスでき、「自分の居場所」になった話を聞いて、イメージは変わりました。

**磯部** そうですね。廣澤睦君は今回申込をしましたか？

**廣澤** 自分の息子は、環境が変わると難しいと思っているのですが、以外とすぐ慣れるかも…(笑)。私と離れて生活することなんて、全く考えないんじゃないかなあ。でも、とても期待しています。

### 目標は30歳にしている

**杉村** 生活寮は、ゆきが高等部でのぞみの家の実習に来て、その頃「生活寮うみ・そら」が出来たばかりの時だったかな、それで初めて身近に知りました。

**磯部** 東村山にはないんですか？

**杉村** ないことはないと思うんですけど、身近にはありません。「生活寮そら」を見せてもらって。すごくきれいで広くて、個室にはすごくびっくりしました。娘が実際に泊めてもらいました。そのときの様子を聞いたら最初だけ「どこにいるのか

な？」って表情で、後はリラックスして旅行気分楽しんでんだそうです。昼間はのぞみの家に通えるので、とても安心です。リラックスした様子を聞くと、この子でもやっていけるんじゃないかって気がして、いつかは入りたいと思っています。

**磯部 杉村**

今回じゃなくて、いつかはね(笑) そうなんです。一応目標としては30歳ですね。成人したときに、10年かけて入れるように準備していきけたらいいなあと目標を立てたので。私は寮に対して、とても良いイメージを持っていきます。

**七人の生活寮は大所帯**

**有馬**

うちの息子は、まだ中学三年生ですが、学校のモヤや親の会で色々見学に行くと、「やっぱりグループホームって出来る人が入るところなんだ。うちの子は無理なんだ」って思います。うちの子は、「生活寮そら」のようなケアホームか入所施設かな？入所施設にも良さってあると思うんですけどね。

先輩の方々を見ていて、親から離れることは大事なこと思っています。



食事をする廣澤くん

**磯部**

す。イリアンソスの「二十歳になったら親元から離れよう」に賛成です。そのために、どういう形のケアホームがうちの子に一番いいのかな？ あった暮らしですから、いろんなスタイルがあっついていいんですよ。

**有馬**

他の人の話を聞いてみると、「生活寮そら」は凄く綺麗だし、スタッフも手厚いし凄く良いと思います。うちの子もここにくるのが良いと思うけど、7人って結構大所帯ですよ？それが良いのかなあって思

**息子の生活を引き継ぐ場**

**磯部**

渡辺さんはどうですか？ここが出来て第一号ですよ。

**杉村**

何歳でした？

**渡辺**

息子が今34歳です。今年6年目だから28歳かな。(養護学校を)卒業して、のぞみの家の活動になれてきたことで、生活寮の暮らしに挑戦できたかな？私のはあの子が障害をもつて生まれて「もうやるしかない」って20数年間やってきました。生活寮は、いままでのことを次の人に引き継ぐ場と思っています。寝たきりの最重度のわが子は、毎日の生活の中で、伝えていかなければならない、見てもらわなければならぬと思っています。

**磯部**

ここに入るとき、「生活寮そら」にするか、他のところにするか迷いましたよね。

**渡辺**

迷ったというか、他のところで行浴とかお願いしていて、そこでも行



杉村さんと渡辺さん、編集委員の安達くん

## 磯部

教みたいな重度の子の生活を支えたいという思いがあったんです。「生活寮そら」が出来るか、出来ないじゃなくて、お母さんの中で行教君をどこかに託そうという気持ちを持っていたことが、すごいなあってわたしは感心しました。

## 渡辺

家に離れじゃないけど、玄関もお風呂もトイレも別に作って、行教専用のお家を作って、同じ敷地でくらし、というイメージしかなかった。イリアンソスが法人になって、どんな障害があっても、その子が暮ら

すにはどうしたらいいか常に考える組織に成長してほしいという思いもあって、「行教をどうしてくれるの？行教を見ないでどうするの？」と心の中で叫んでいました。行教は遠い施設ではやっていけないと考えていたので、行教のため、私のためにイリアンソスに託するという思いはありました。

## 最終的には本人が判断

## 磯部

最初ここを作ったときにスタッフだけではなかなか難しいから、親にも協力してもらって、バトンを引き渡す時間をたっぷりとって、親とスタッフと一緒に支え合いながらやって下さい、って話をしました。

## 渡辺

今後は、行教の場合は医療的なケアが必要になってくるし、医療ということはプラス安全や衛生が付き物になってくるから、どこまで寮でやれるのかとっています。

## 磯部

道路の反対側に久保クリニクがあることが、「生活寮うみ・そら」にとって、とてもラッキーでした。何かあれば気軽に医療とつながれる、これは本当に利用者にとっても、

われわれにとっても財産です。今度出来る寮も地域的に近いので連携ができます。

ところで、初めのころスタッフが入れ替わって凄く不安でしたですよ(笑)

## 渡辺

でもね、私たちはそういうことになれているのよね。のぞみの家が無認可のころも、よくスタッフの色々変わりました。変わっても最後には私たちがやれば良いのよ(笑)。最終的に行教が判断することだと思える。よく人を見ているし。あの子が笑顔ならいいのよね。

不安から安心に変わり、相手を信頼できればどこだって暮らしていけると思うの。

## 一人ひとりの生活に合わせる

## 有馬

イリアンソスは、スタッフや施設がその人に合うよう、対応を変えればいいって考え方をしてくれるじゃないですか。だけど世の中は「うちはどうだから、こういう人を」って。だんだんそういう風になってきているのかなあ。だからうちは生活寮なんて無理とっていました。イ



有馬さんと廣澤さん

### 廣澤

リアンソスみたいな考え方が、広がってくれたらなああって思いますよ。なかまの家を作ったところから、将来は生活寮をつくらうと話し合ってきました。でもなかなか実現するのは難しかったです。そうこうしているうちにイリアンソスの傘下に入って、なかまの家の利用者も「生活寮そら」で生活している姿を見ると、自分たちで作らうという気持ちではなくりました。そういったこと

### 有馬

もまったくパー。とにかくここに任せておけば良いって(笑)  
同じ法人の中でやる意味って、大きいですね。

### 磯部

支援の多い人たちにとっては、健康・体調面の情報交換をちゃんやらなきゃいけないけれど、自らの生活を組み立てられる人には、本人を飛び越えた情報交換は、その人の気持ちを傷つけてしまいます。法人内でとっても本人主体は基本ですよ。

生活寮の日常は変化が少ないから、スタッフも日々をこなす支援になりがちです。人は年を取るし、季節も変わるし。でも、毎日同じことの繰り返しになって満足しちゃう。暮らしの中の変化を大事にしたいかないと。例えば旅行に行きたいとかね。

### いろいろな生活を創造していく

### 廣澤

息子の性格や状態を考えると、なかまの家に一緒に行っている女の子が時々生活寮に現れて欲しいのね。一緒に食事が出来るころでは、様子が見られるとか。男だけじゃ

## 新連載

### がんばれイリアンソス!

連載「この街の自立支援法」で東久留米市の障害者福祉制度の一部を紹介してきました。今号から、「がんばれイリアンソス!」と題して、当法人に対する叱咤激励や様々な意見を紹介するコーナーをつくりました。

『ボーリング大好き!』

目指すはプロボーラー!?!?!』

中村 紀子

知的しょうがい、てんかん、1型糖尿病をもつ息子の趣味は、ボーリングです。

3年生の頃からはじめたボウリング。あつという間にはまり、中学を迎えた今では、休日には、ひとりでも自転車に乗りボーリング場へ行きます。

5年生の時、「大会に出たい!」という本人の強い希望がありました。好き勝手に投げる息子が出場できる大会は、そうありませんでした。そこで、インストラクターの方に相談。試合形式で行なう10回リーグ戦のスクールに参加することに。しかし、『隣のレーンの人と同時に投げてはいけない。』など、最低限の決まりが、なかなか守れず、周りの方々に注意され、指導され、少しづつ、人の話が聞けるようになり、次第に、ルールも守れるようになりま

磯部

無いほうが良いと思うの。様子を見るだけでも安心すると思うのね。

同性介助とはまた別に、そのあたりが新しい生活寮の課題になるかな?とは思ってるけどね。

渡辺

プレイルームみたいなのがある  
と良いよね。

磯部

男性だけだとダラダラしちゃうし、女性だけだと時にはピリピリしちゃうし。うまい具合に交じり合っ  
て少し緊張感があっても良いかなあ。いろんな暮らしが広がってきま  
すね。やっぱり、将来に夢があるこ  
とはとても大切だと思います。これ  
しかないというのではなく一人ひ  
とりが違う暮らしを見つけていく。  
そんな暮らしを実現する為にも、み  
んなが声をだしていく。そして、社  
会が障害のある人の暮らしを支え  
ていく仕組みを作りたいと思いま  
す。  
今日はお忙しい中、ありがとうございます。

参加者  
有馬 優子さん

息子 清瀬特別支援学校  
中学三年生

杉村 さん

杉村 幸(のぞみの家)

廣澤 さん

廣澤 睦(なかまの家)

渡辺 さん

渡辺行教(のぞみの家)

のぞみの家施設長

磯部 光孝

◆用語解説◆

《生活寮・グループホーム・ケアホームの違い》

生活寮はもともと東京都の制度の中で使っていた用語です。事業内容はいずれも同じです。ただし、現在は、障害者自立支援法の事業として、ケアの必要な人のためのホームがケアホーム。ケアではなく見守りなどの必要な人のためのグループホームに分かれています。

した。

気がつけば、私の知らない方々と「おう！」とあいさつするほどの顔なじみがたくさんできていてびっくりするやら、うれしいやら……。

その後、東京都ボウリング連盟のジュニアボウリング大会に参加。当日、午前・午後、合わせて6ゲームです。びっくりするほど、きちんと座り、はじまりの挨拶をし、自分の順番を待つ。そして、自分の順番に投げる。当たり前のことですが、息子にとっては長〜い道のりでした。(まだまだですが……)

「大会にでたい！」という本人の夢もかない、今度は、障害者スポーツ大会へ参加。全国大会に出場できるくらいの成績でしたが、「自分で自分の管理ができること」など、糖尿病を併せ持つ息子にとっては、ハードルの高いものです。でも、ここまでできたのは、本人の「ボウリングだいすき！」と言う気持ちがあったからこそなのでしょう。これからも、「大好き！」の気持ちで夢を実現して行ってほしいなと思います。毎日、元気に仕事に行き、時には、仲間と、一人で、趣味を楽しみ、人の手を借りつつも、自分の体を管理しながら、楽しく暮らしている。そんな、息子の将来の姿を思い描いています。

毎日の投薬、自己注射が欠かせない生活ですが、イリアンソスや、地域のひとと繋がりがながら、ひとつ、ひとつ、夢を実現できたらいいなあと思っています。

へ前向きで明るい中村さんです。息子さんが1型糖尿病を併せ持つというあまり前例のない障害がありますが、行政や周りに粘り強くお願いし、夢を着実に実現させています。イリアンソスも、さまざまな障害のある方々の夢の実現に少しでも役に立ちたいです。v

## 法人行事

### 『のぞみの家作品展』

利用者が描いた個性豊かな絵画を中心に、ビーズ・和紙など様々な作品を展示しています。また、販売も行なっていますので是非、お立ち寄りください。お待ちしております。

◎日時：11月17日(水)～20日(土)10時～16時  
◎場所：スペース105 (市役所向かい)

### 『リサイクル久留店』

のぞみの家のチャレンジ班が中心となって、手作りケーキなども販売しています。

◎場所：滝山団地センター前広場  
◎日時：9月9日(木)30(木)、  
※雨天の場合は、中止となります。

### 『ポーナズバザー』

活動センターかなえのなのはな班が中心となつて品物の回収・値付け、販売をしています。売り上げが利用者のポーナズに反映されます。

場所：滝山団地センター前広場  
日程：10月3日(火)21日(木)、11月4日(木)・18日(木)、12月2日(木)・21日(火)  
時間：10時30分～12時  
※雨天の場合は、中止となります。

## 編集後記

猛暑つづく今日この頃。体調を崩したり、熱中症で倒れる人々が多く出ています。皆さんは健康管理大丈夫ですか？水分をこまめに取り、注意していきましょう。  
とは言うものの、先日、のどが水分を要求し、撰取しすぎたのか、お腹をこわしたりしてしまいました。・・・。  
体調管理の一環として？体力づくり？ダイエット？などを含み、最近はおウォーキング

も始めました。日がおちてもまだまだ暑く、ペットボトルに水を入れ一時間ほど歩く程度ですが、汗はダラダラ水は空っぽになって帰ってきます。ただいつまでもつか・・・。  
さて、広報に携わるのも早8回目となりますが、未だに内容・構成などに苦労しています。読んでいただいている皆さまからの感想などのお言葉が、多大な励みにもなっております。心から感謝いたします。今後も宜しくお願いします。

編集委員 矢島正樹

### ご寄付をいただきました。

(7月末日まで)

法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。  
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使用させていただきます。

崎原ひとみ様  
藤田 祐子様  
山脇百合子様  
イトーヨーカ堂  
ザ・プライス滝山店労働組合滝山支部様  
ありがとうございます。

### 《 発行 》

特定非営利法人 障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0073 東京都世田谷区砧 6-26-21  
Tel 03-3416-1698 Fax 03-3416-3129

### 《 企画、編集 》

社会福祉法人 イリアンソス  
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18  
Tel 042-473-9027 Fax 042-473-9036

### 《 編集委員会 》

安達 聡、池田苗生子、磯部光孝、金野博志、  
多田由美、矢島正樹、吉田遊佑



定価 100円